

・たかくさ保育園）、副会長
北野久美（北九州市・あけ
ぼの愛育保育園）、服部明子
（千葉県・府馬保育園）、笠
置英恵（京都府・今里こども
園）。

家庭的保育の良さ

周知を／セミナー

家庭的保育全国連絡協議会
（水嶋昌子理事長）は5月23
日、「もっと広げよう、もっと
深めよう」家庭的保育とネット
ワークづくり」と題してオ
ンラインのセミナーを開いた。
人口減少地域における家庭的
保育の新たな役割が問われる
とともに、家庭的保育の良さ
を周知させる重要性などが指
摘された。

冒頭、厚生労働省子ども家
庭局保育課から行政説明が行
われた。この中で、人口減少
社会の保育行政と家庭的保育
の役割について言及があり、
人口が減少する中で全体とし
て待機児童が解消されつつあ
り、地域における保育のあり

方が課題となっている旨が指
摘された。その上で、人口減
少地域における保育の調査研
究事業で、家庭的保育の利用
児童数について、都市部では
減少しているが人口減少地域
では減少率が小さいことから、
人口減少地域で家庭的保育の
ニーズがあるのではないかと
提起。また、虐待予防の観点
から孤立感を強める3歳未満
の在宅子育て世帯の支援が課
題になる中、子育て支援の担
い手としての保育の役割が注
目されていることにも触れた。
また、同協議会理事の尾木
まり・子どもの領域研究所長
が「家庭的保育とネットワー
クづくり」と題して基調講演。
家庭的保育利用者の満足度は
高いものの、次の子は預けな
かったり、家庭的保育で待機
が生じることはないなど、利
用が広がらない点を問題視し
た。その原因として、卒室後
も連携保育所に入所できるこ
とや家庭的保育の良さが周知
されていないと指摘。地域に

根付いた家庭的保育だけに子
どもが地域社会の一員になる
といった良さを行政担当者や
関係施設などに積極的に発信
する必要があると説いた。さ
らに、年度当初の定員に空き
を利用した一時預かりなど、
人口減少時代の新たな役割を
模索するよう訴えた。
さらに、シンポジウムでは、
山形県長井市、東京都板橋区、
神奈川県秦野市、兵庫県神戸
市の家庭的保育者がコロナ禍
での対応などについて事例報
告。登園自粛期間中、自宅待
機の世帯に子どもの名前を呼
びかけ、手遊び歌を歌う動画
を配信したり、ラインでテレ
ビ会話するなど関係をつなげ
る工夫をし、適切な情報発信
をしたことで保護者から評価
された事例や、保護者に障害
があり子どもにも障害の兆候
が見られる中で保育室独自に
補助者を配置し、ネットワー
クを生かして援助を行い療育
施設につなげた事例、課題を
抱える保護者に受容的な態度

で寄り添いながら卒室まで支
援した例などが報告された。
子どもの育ちを保障するため
に保護者との信頼関係を築く
重要性や、支援の厚みを増す
ためのネットワークづくりの
大切さが確認された。

若い社会福祉職員の 情熱を応援する大会 保育士も登場

全国の社会福祉の第一線で
活躍する若手職員から「日本
一の「福祉人」（社会福祉を
チェンジする情熱にあふれる
人）」を決める大会「社会福
祉HERO's TOKYO
2020」が5月19日、東
京都千代田区大手町で開催さ
れた。6ブロックから勝ち上
がったファイナリスト7人の
うち、保育分野からは社会福
祉法人和幸園（青森県）の地
域子育て支援センターの副主
任保育士でユーザーバーの
高橋恵理さんが出場した。
高橋さんは新型コロナウイルス
感染の影響により子育て

て支援センターが休園となっ
たことをきっかけに2020
年の5月からユーザーバー
に挑戦。一人で子どもと過ご
す時間が多く煮詰まるママた
ちの「孤育て」を防ぐべく、
企画・編集・配信のすべてを
こなし、週に1度の更新を続
けている。プレゼンテーショ
ンで高橋さんは「子育て支援
センターの保育士は、はじめ
てのせんせい」になる。保育
士にも地域をつなげる役割が
求められている時代。この取
り組みによって支援センター
を知ってもらう機会になれば」と話した。

同大会は全国社会福祉法人
経営者協議会が主催しており、
深刻な人手不足となっている
福祉分野において、未来の福
祉を担う大学生や専門学校生
に目標や奮起を与え、「社会
福祉」に対して正しい理解を
深めてもらうことを目的とし
て開催している。アートやエ
ンタメなど、クリエイティブ
な取り組みを行っている福祉

関連職員のプレゼンテーショ
ンによって、ネガティブなイ
メージを変革することがねら
いだ。

本を通じた子育て支援で 「いじめむら出版創設

埼玉県久喜市で認定こども
園こどもむらなどを運営して
いる学校法人柿沼学園（柿沼
平太郎理事長）はこのほど、
本を通じた子育ての普及促進
を目的とした「こどもむら出
版」を立ち上げた。現在、同
出版が最初の刊行物として発
行した冊子『なぜ、本を読む
の？』が話題を呼んでいる。

この冊子を書き下ろしたの
は脳科学者の西剛志氏。子ど
もの素朴な「本を読む理由」
という疑問に対して、「本を
よむとつよくなれるよ」、
「本をよむと数学が得意にな
るよ」等、脳科学的に見た紙
の本の有益な効果をやさしい
言葉で解説していく内容となっ
ている。ページをめくると
に豊かな表情を見せるクマの

挿絵は、イラストレーターの
ふじれみ氏が担当したものだ。
同出版はこの冊子をきつか
けとして本を読むことの素晴
らしさに触れてほしいと話し
ている。現在は、保育施設や
本屋、図書館などで配布され
ており、6月初旬現在で1万
冊の増刷が決まっている。

動画と連動した 子育て応援ブック発刊

北海道札幌市のNPO法人
子育て応援かぎぐるまはこの
ほど、新生児から3歳までの
乳幼児とのかかわり方や接し
方、遊び方を紹介する「プレ
ママ&プレパパと0・1・2
・3歳児を育てる親子のため
の子育て応援ブック」を発行
した。各ページにはQRコー
ドが掲載されており、スマー
トフォンで読み取ること
で連動した動画を視聴できる仕組
みとなっている。

この応援ブックは、201
9年に発行された「プレママ
&プレパパや赤ちゃんを育て

る親子のための子育てガイド
ブック」の改訂版。前版は道
内にある市町村から市民への
出産プレゼントとして配布さ
れたり、地域子育て支援拠点
や保育施設などの専門機関な
どに設置されたり、様々な場
所で活用されている。今回の
改訂ではページを8ページ拡
大し、0〜3歳児の親子へと
対象を広げた。また、同法人
で新型コロナウイルス感染症
の感染拡大を受け、人と人との
つながりが持ちづらい状況
でも子育て中の親が有用な情
報を得ることができるよう、
子どもとの生活や遊びをイメ
ジしやすい動画を100本ユー
ザーバーに投稿しており、今
回発行された応援ブックでは、
その動画と連動して使用する
ことが可能である。

同法人は今回の改訂によっ
て子育て応援ブックと動画が、
親子の子育ての拠り所や支援
者の情報提供の拠り所になれ
ばと期待している。